

# 住宅市街地基盤整備委託(埋蔵文化財調査)報告書

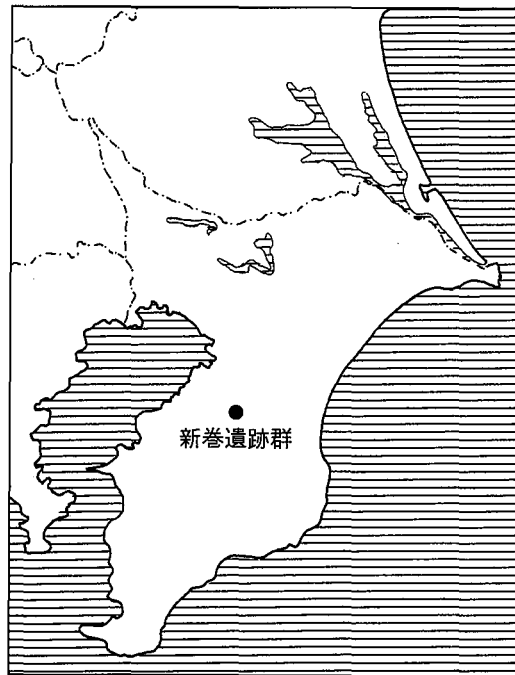
— 市原市新巻遺跡群 —

平成21年3月

千葉県県土整備部  
財団法人 千葉県教育振興財団

# 住宅市街地基盤整備委託(埋蔵文化財調査)報告書

いちほら あらまき  
— 市原市新巻遺跡群 —



## 序 文

財団法人千葉県教育振興財団（文化財センター）は、埋蔵文化財の調査研究、文化財保護思想の涵養と普及などを主な目的として昭和49年に設立され、以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として多数の発掘調査報告書を刊行してきました。

このたび、千葉県教育振興財団調査報告第626集として、千葉県県土整備部の住宅市街地基盤整備委託（埋蔵文化財調査）に伴って実施した市原市新巻遺跡群の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

新巻遺跡群では奈良・平安時代の竪穴状遺構が検出されるなど、この地域の歴史を知る上で貴重な成果が得られております。

刊行に当たり、この報告書が学術資料として、また埋蔵文化財の保護と理解のための資料として広く活用されることを願っております。

終わりに、調査に際し御指導、御協力をいただきました地元の方々を始めとする関係の皆様や関係機関、また、発掘から整理まで御苦勞をおかけした調査補助員の皆様に心から感謝の意を表します。

平成21年3月

財団法人 千葉県教育振興財団  
理事長 福 島 義 弘

# 凡 例

- 1 本書は、千葉県県土整備部による住宅市街地基盤整備委託（埋蔵文化財調査）に伴う発掘調査報告書である。
- 2 本書に収録した遺跡は、千葉県市原市新巻434-1ほかに所在する新巻遺跡群（遺跡コード219-091）である。
- 3 発掘調査から報告書刊行に至る業務は、千葉県県土整備部の委託を受け、財団法人千葉県教育振興財団が実施した。
- 4 発掘調査及び整理事業の担当者、実施期間は本文中に記載した。
- 5 本書の編集及び執筆は、主席研究員 土屋治雄が担当した。
- 6 発掘調査から報告書の刊行に至るまで、千葉県教育庁教育振興部文化財課、千葉県県土整備部千葉地域整備センター市原整備事務所、市原市教育委員会の御指導、御協力を得た。
- 7 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。
  - 第1図 国土地理院発行 1/25,000地形図「海士有木」(N I -54-19-16-1)  
国土地理院発行 1/25,000地形図「鶴舞」(N I -54-19-16-2)
  - 第2図 市原市作成基本図 J-8 IX-ME 17-2 (1/2,500)
- 8 周辺地形航空写真は、京葉測量株式会社による昭和42年撮影のものを使用した。
- 9 本書で使用した図面の方位はすべて座標北である。測量値は世界測地系である。
- 10 本書で使用した遺構番号は調査時の番号を踏襲し、遺構種別ごとの通し番号である。
- 11 本書で使用した遺構の略号は次の通りである。

SI：竪穴状遺構    SD：溝状遺構・道路状遺構    SK：土坑
- 12 挿図に使用した記号及びスクリーン tone の用例は次のとおりである。ここに記載のないものは挿図内に記載している。



土器



鉄製品



灰釉陶器



黒色処理 (内面)



須恵器・施釉陶器 (断面)

# 本文目次

序文

凡例

第1章	はじめに	1
第1節	調査の概要	1
1	調査に至る経緯	1
2	調査の経過	1
3	調査の方法	2
第2節	遺跡の地理的環境と周辺の遺跡	2
1	遺跡の地理的環境	2
2	周辺の遺跡	2
第2章	検出された遺構と遺物	6
第1節	遺構	6
1	竪穴状遺構	6
2	溝状遺構	7
3	道路状遺構	10
4	土坑	11
第2節	遺構外出土遺物	12
1	旧石器時代石器	12
2	縄文時代土器・石器	12
3	奈良・平安時代の遺物	12
4	中・近世の遺物	15
第3章	まとめ	16
	報告書抄録	巻末

## 挿 図 目 次

第1図	遺跡の位置と周辺の遺跡	3	第8図	SK-001	11
第2図	調査区周辺地形図	4	第9図	SK-002	11
第3図	遺構位置図・標準土層図	6	第10図	旧石器時代石器	13
第4図	SI-002	8	第11図	縄文時代土器・石器	13
第5図	SD-001	9	第12図	奈良・平安時代の遺物	14
第6図	SD-003・004	9	第13図	中・近世の遺物	14
第7図	SD-002	10			

## 表 目 次

第1表	周辺の遺跡	3
第2表	遺構一覧表	17
第3表	石器計測表	17
第4表	SI-002土器観察表	17
第5表	掲載土器観察表	18
第6表	非掲載遺物重量表	19

## 図 版 目 次

図版1	遺跡周辺航空写真	図版5	下層グリッド(3D-46)
図版2	調査前風景1(南から)		縄文土器
	調査前風景2(西から)		縄文時代石器
	SI-002	図版6	旧石器時代石器
図版3	SI-002出土遺物	図版7	SI-002出土遺物
	SD-001	図版8	奈良・平安時代の遺物(1)
	SD-002	図版9	奈良・平安時代の遺物(2)
図版4	SD-003		中・近世の遺物
	SK-001		
	SK-002		

# 第1章 はじめに

## 第1節 調査の概要

### 1 調査に至る経緯

千葉県県土整備部は、市原市から茂原市に至る主要地方道である県道市原茂原線の改良工事を計画し、事業区域内の路線上に所在する埋蔵文化財の有無について、千葉県教育委員会に照会した。その結果、当該用地内の埋蔵文化財が所在する部分の取り扱いについて千葉県教育委員会と千葉県県土整備部との間で慎重な協議が重ねられた。その結果、現状保存が困難な部分については、やむを得ず発掘調査による記録保存の措置を講ずることで協議が整い、財団法人千葉県教育振興財団に委託され平成20年度に発掘調査を実施した。整理作業・報告書刊行も平成20年度に実施した。

### 2 調査の経過

発掘調査は、県道市原茂原線内の遺跡対象面積1,280㎡について、平成20年7月11日から7月31日までを期間として実施した。上層の確認調査は、調査区に均等に幅2mの確認トレンチを7本(長さ合計76.5m)設定して実施した。その結果、1か所のトレンチから灰釉陶器、土師器等の遺物を伴う竪穴状遺構および道路状遺構が検出されたため290㎡の本調査を実施した。下層の調査はローム層の遺存している2か所(8㎡)について2m×2mのグリッドを設定して実施した。遺物の出土が見られなかったため確認調査で終了した。

整理作業も平成20年度に実施した。調査概要および担当者は以下のとおりである。

#### (1)発掘調査

調査内容 確認調査・本調査

期 間 平成20年7月11日～平成20年7月31日

内 容 確認調査 上層 153㎡/1,280㎡, 下層 8㎡

本調査 上層 290㎡

作業内容 準備・設営・環境整備・測量・トレンチ・表土除去・遺構等検出・精査・実測・撮影  
遺物取上げ・資料整理

組 織 調査研究部長 大原正義 中央調査事務所長 折原 繁

担当職員 主席研究員 土屋治雄

#### (2)整理作業

期 間 平成21年1月16日～平成21年2月28日

内 容 水洗・注記～報告書刊行

作業内容 水洗・注記・記録整理・分類・接合・トレース・拓本・撮影・挿図・図版・原稿・編集  
校正・刊行・移管整理

組 織 調査研究部長 大原正義 中央調査事務所長 折原 繁

担当職員 主席研究員 土屋治雄

### 3 調査の方法（第3図）

新巻遺跡群の今回の調査対象は、長さ130m、最大幅13mの東西に細長い調査区である。平面直角座標IX系に基づき調査対象を覆うようにグリッドの設定を行った。グリッドはY=31,020, X=-63,440を起点に、20m×20m方眼を大グリッドとして、南北方向を北から1, 2, 3, 4, 東西方向を西からA, B, C…Gとして設定した。さらに、このグリッドを2m×2mの小グリッドに100分割し、北から南へ00~90, 西から東へ00~09と設定した。したがって、各小グリッドはこれを組み合わせA1-00, D2-55のように呼称した。

遺構の調査は、土層観察用のベルトを設定して調査を行った。遺物の取り上げは、遺構毎、小グリッド毎に通し番号を付し、出土位置と出土レベルを記録した。遺構の実測は、平板測量で行った。遺構番号は、遺構の種別毎に通し番号を付した。遺構毎に遺物出土状況、完掘状況などの写真撮影を行った。

## 第2節 遺跡の地理的環境と周辺の遺跡

### 1 遺跡の地理的環境（第2図、図版1）

新巻遺跡群は、市原市の東、市原市新巻の丘陵鞍部に所在する。房総半島中央部を東西に分ける分水嶺の西に位置し、東側は太平洋に注ぐ一宮川水系となる長生郡長柄町と接する。遺跡は標高70m前後で、西側を流れる新堀川は市原市を斜めに縦断する養老川に合流し東京湾に注いでいる。丘陵平坦面の周囲は標高100m前後の房総丘陵に囲まれ、尾根伝いの北東3.5kmには標高173mの権現森が聳え、また東側は一宮川の支流が裾に添って流れ、少し先で本流へと合流する。

遺跡は、この丘陵の最奥部にあり、北東方向に僅かな傾斜が確認できる比較的広い平坦面に立地している。今回の調査地点はその北縁に当たっている。黄褐色土の検出位置が中央部分で深く、周辺部で浅かったことから、谷状の地形が埋没したと推察される。既に奈良・平安時代には平坦面が形成されていたと思われる、該期の遺物が同じようなレベルで検出された。周辺の丘陵部にも平坦面が形成され、小高い台地状の地形を呈している。

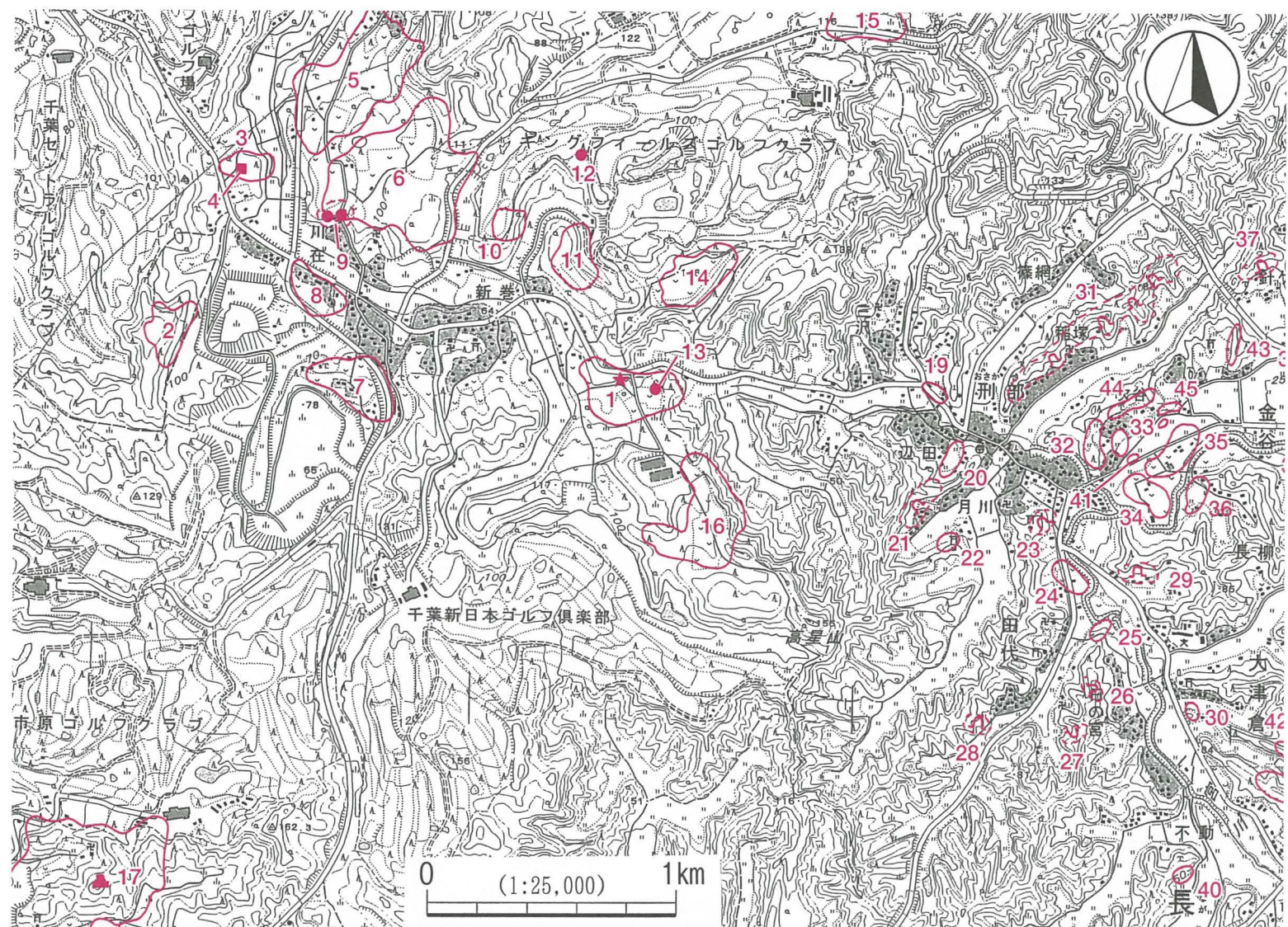
### 2 周辺の遺跡（第1図、第1表）

新巻遺跡群（1）は、市原市と長柄町の市町境、同時に旧市原郡と長生郡の郡境にもあたる市原市東部の新巻地区に所在する。新巻地区周辺を特色付ける遺跡は、市原市側では古墳および古墳群、それに縄文時代、古墳時代、奈良・平安時代の包蔵地であり、15遺跡が確認できる。南障子塚古墳群（9）では円墳2基が確認でき、他に新巻若宮古墳（12）、新巻鳥越古墳（13）も所在している。新巻鳥越古墳は当遺跡内に所在する古墳である。城館跡として戦国時代の奉免白山城跡（17）がある。

一方、長柄町側の遺跡を特色付けるのは横穴墓、それに平安時代の包蔵地であり、29遺跡が確認できる。横穴墓は長柄のみならず東上総の古墳時代後期の特徴的な葬制である。新巻遺跡群周辺でいえば、東側の刑部・稲塚横穴群（9基）（31）、刑部・月川横穴群（3基）（21）、大津倉長柳横穴群（3基）（29）、榎本・大平台泉谷横穴群（3基）（18）等が代表例だが、未だ人知れず埋もれている例も多々あると思われる。また、城館跡として中世の高山城跡（42）がある。

この地区周辺で発掘調査が実施された遺跡は4か所である。市原市では、本遺跡の北750mに所在する川野遺跡（6）があり、川在南障子遺跡<sup>1) 2) 3)</sup>の名称で昭和63年と平成3年に発掘調査が行われ、平成3年の調査では縄文時代の竪穴住居跡2軒、小竪穴4基、掘立柱建物跡1棟が検出されている。長柄町では





第1図 遺跡の位置と周辺の遺跡

★調査地点

第1表 周辺の遺跡

市原市

番号	分布地図	遺跡名	種別	時代	遺構	水系	番号	分布地図	遺跡名	種別	時代	遺構	水系
1	499	新巻遺跡群	包蔵地	縄文・平安		新堀川	24	68	細田遺跡	包蔵地	平安		一宮川
2	488	川在山吹遺跡	包蔵地	縄文		養老川	25	69	外道遺跡	包蔵地	平安		一宮川
3	489	富坂遺跡	包蔵地	縄文		新堀川	26	70	日陰横穴	横穴	古墳	横穴1基	一宮川
4	490	川在三山塚	塚	近世		新堀川	27	71	向井横穴群	横穴	古墳	横穴2基	一宮川
5	491	川在遺跡群	包蔵地	縄文・古・奈・平		新堀川	28	72	越田横穴群	横穴	古墳		一宮川
6	492	川野遺跡	集落跡	縄文・奈良・平安		新堀川	29	73	大津倉長柳横穴群	横穴	古墳	横穴3基	一宮川
7	493	川在上ノ岱遺跡	包蔵地	縄文		新堀川	30	74	動免横穴	横穴	古墳	横穴1基	一宮川
8	494	左屋戸遺跡	包蔵地	縄文		新堀川	31	75	刑部・稲塚横穴群	横穴	古墳	横穴9基	一宮川
9	495	南障子塚古墳群	古墳	古墳	円墳2基	新堀川	32	76	後領遺跡	包蔵地	平安		一宮川
10	496	竹ノ中遺跡	包蔵地	縄文		養老川	33	77	後領下遺跡	包蔵地	縄文		一宮川
11	497	新巻向山遺跡	包蔵地	縄文		新堀川	34	78	北一丁目遺跡	包蔵地	平安		一宮川
12	498	新巻若宮古墳	古墳	古墳	円墳1基	新堀川	35	79	市神遺跡	包蔵地	縄文・平安		一宮川
13	500	新巻鳥越古墳	古墳	古墳	円墳1基	一宮川	36	80	清水谷遺跡	包蔵地	縄文・平安		一宮川
14	501	八百谷遺跡	包蔵地	縄文・古・奈・平		新堀川	37	81	金谷・小金谷横穴群	横穴	古墳	横穴5基	一宮川
15	502	筑見遺跡	包蔵地	縄文・古・奈・平		一宮川	38	82	鍛冶ヶ作塚	塚	近世	塚1基	一宮川
16	600	太田切遺跡	包蔵地	縄文・平安		新堀川	39	85	内合遺跡	包蔵地	平安		一宮川
17	1018	奉免白山城跡	城館跡	戦国	郭・空堀・土塁	養老川	40	160	下谷遺跡	包蔵地	平安・中世		一宮川
							41	162	高田脇谷横穴	横穴	古墳	横穴1基	一宮川
							42	169	高山城跡	城館跡	中世	郭・空堀	一宮川
							43	196	八幡谷遺跡	包蔵地	奈良・平安・中近世		一宮川
							44	197	卯ノ沢北遺跡	包蔵地	奈良・平安・中近世		一宮川
							45	198	卯ノ沢南遺跡	包蔵地	奈良・平安・中近世		一宮川
							46	199	水引遺跡	包蔵地	奈良・平安・中近世		一宮川
							47	200	吹谷前遺跡	包蔵地	奈良・平安・中近世		一宮川

長柄町





調査地点

----- 遺跡範囲

0 (1:2,500) 100m

第2図 調査区周辺地形図

県道市原茂原線改良事業に伴って調査された後領遺跡(32)と市神遺跡(35)がある<sup>4)</sup>。両遺跡は、本遺跡からはおよそ2kmほど東側に所在する。後領遺跡の調査は平成16年に実施され中世の城館跡の遺構となる曲輪・堀・障壁・溝状遺構が検出され、縄文土器や古墳時代の土師器なども出土している。市神遺跡の調査は平成18年及び平成19年に実施され、弥生土器、古墳時代、奈良・平安時代の土師器などが出土し、奈良・平安時代の竪穴住居跡が検出されている。北一丁目遺跡(3)<sup>5) 6) 7)</sup>でも発掘調査が行われ、平成5年度の調査で平安時代の土坑2基が検出された。

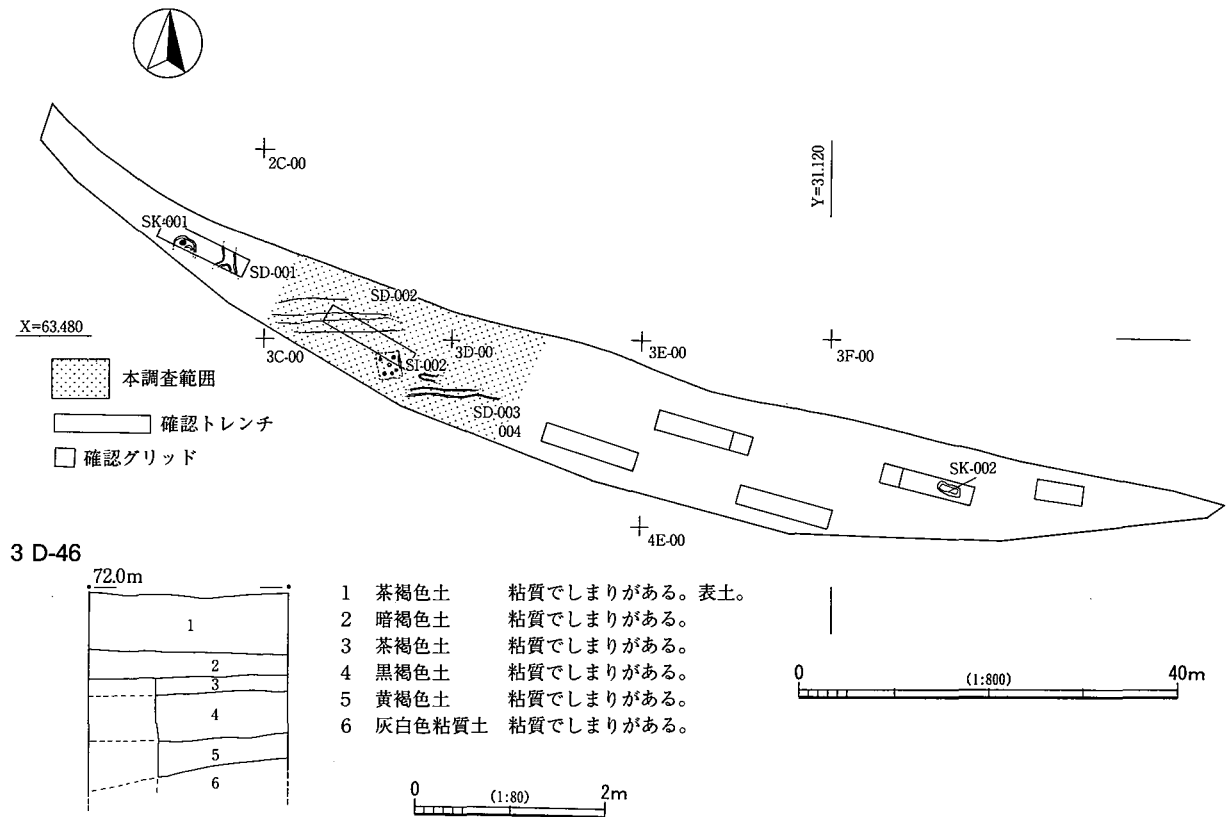
- 注1 市原市文化財センター年報 昭和63年度 財団法人市原市文化財センター  
2 市原市文化財センター年報 平成3年度 財団法人市原市文化財センター  
3 平成3年度市原市内遺跡発掘調査報告書 平成3年 市原市教育委員会  
4 主要地方道市原茂原線(刑部・金谷)道路改良事業埋蔵文化財調査報告書平成19年  
(財)千葉県教育振興財団  
5 長生郡市文化財センター年報No.9 平成5・6年度 財団法人長生郡市文化財センター  
6 総南文化財センター年報No.11 平成9・10年度 財団法人総南文化財センター  
7 総南文化財センター年報No.12 平成11・12年度 財団法人総南文化財センター

## 第2章 検出された遺構と遺物

### 第1節 遺構

#### 概要（第3図）

新巻遺跡群で検出された遺構は竪穴状遺構1基、溝状遺構3条、土坑2基、道路状遺構1条であった。検出地点で見ると西側で竪穴状遺構、道路状遺構、溝状遺構、土坑1基、東側で土坑1基が検出されている。



第3図 遺構位置図・標準土層図

#### 1 竪穴状遺構

##### SI-002と出土遺物（第4図、図版2・3・7）

調査区西側2B-04ほかから検出された竪穴状遺構である。推定長軸2.76m、幅2.46mで、平面形は南北方向に長い長方形と推定される。トレンチ調査中に土師器が出土し周辺を精査したところ、ややまとまって土師器が出土した。床面を精査したところ柱穴が5基検出されたので竪穴状遺構とした。柱穴の平面形態はすべて円形で、規模はP1-長径35cm、深さ26cm、P2-長径34cm、深さ53cm、P3-長径32cm、深さ51cm、P4-長径22cm、深さ30cm、P5-長径25cm、深さ41cmである。P5は入り口ピットが想定される。遺構の壁は不明瞭で検出できなかった。当初竪穴状遺構と判断できなかったため、遺物はグリッドで取り上げたも

のが多い。遺構北側で若干の山砂の遺存が確認できたものの明瞭なカマドは検出されなかった。硬化面も検出されなかった。

1は土師器の甕の口縁部である。口縁部から肩部が残存し、口縁部はくの字状に外反している。復元口径14.8cmを測り、外面ヘラケズリ、内面ヘラケズリで調整され、胎土には砂粒、褐色粒、白色針状物質を含み焼成は良好である。色調は内外面共橙色を呈する。

2は土師器の足高高台で上部に坏か椀が付くと思われる。接合する坏や椀は出土していない。大きく踏ん張るようにハの字状に開き、端部は外反しない。復元高台裾径7.4cm、現存器高4.0cmを測り、SI-002出土土器と3C-07・16グリッド出土の土器が接合した。外面・内面回転ナデで調整され胎土には砂粒、雲母、白色針状物質を含み焼成は良好である。色調は内外面共橙色を呈する。

3～6はグリッド出土であるがSI-002に伴う可能性が高いと思われるのでここに掲載する。

3は3C-27グリッドから出土した土師器坏である。復元口径13.0cmを測り、外面、内面回転ナデで調整され胎土には砂粒、雲母、白色針状物質を含む。色調は内外面橙色を呈し焼成は良好である。

4は3C-16グリッドから出土した土師器底部である。復元底径6.4cmを測り、外面ヘラケズリ、内面ナデで調整され底部は回転糸切りされる。胎土には砂粒、褐色粒、雲母を含み焼成は良好である。色調は内面明赤褐色、外面赤褐色を呈する。

5は3C-16と3C-17グリッドから出土し接合した土師器坏である。復元口径12.2cm、器高4.6cmを測り、底部と口縁の一部を欠損する。薄い底部の中心がすっぽり抜けており高台部が剥がれたものと見られる。外面、内面は回転ナデで調整され底部は回転糸切りされる。胎土には砂粒、スコリア、白色針状物質を含み焼成は良好である。色調は内外面共明褐色を呈する。

6は3C-16グリッドから出土した灰釉陶器長頸壺の頸部から肩部である。頸部の一部を除き全体に灰釉が見られる。残存器高9.6cmを測り、外面、内面回転ナデで調整され胎土には砂粒、石英を含み焼成は良好である。色調は内面灰白色、外面灰オリーブ色を呈する。

## 2 溝状遺構

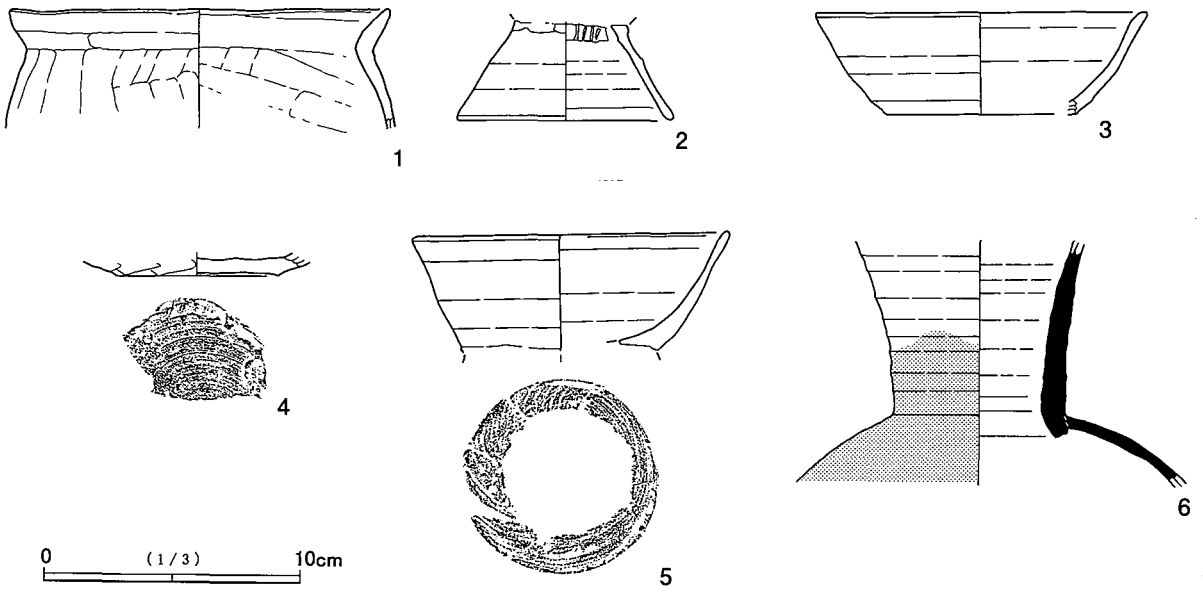
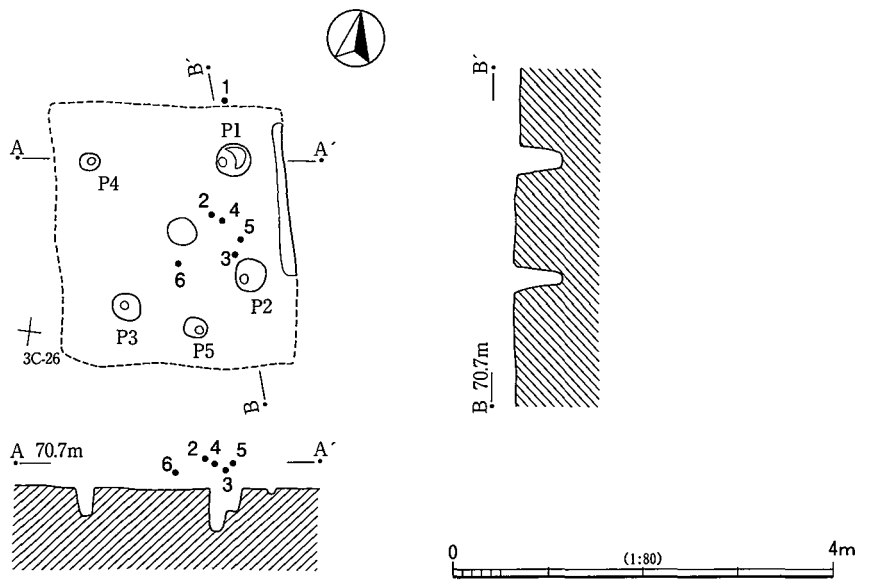
### SD-001 (第5図, 図版3)

調査区西側2B-58グリッドほかから南北方向に検出された溝状遺構である。検出された長さ2.1m、幅1.3m、検出面からの掘り込みの深さ22cmを測る。直線状であるが南側で広がり浅めの土坑を伴う。両端は調査区外に続く。遺物は出土していない。狭い調査区の中での検出のため性格等は判断できない。

### SD-003 (第6図, 図版4)

調査区西側3C-28グリッドほかから東西方向に検出された溝状遺構である。

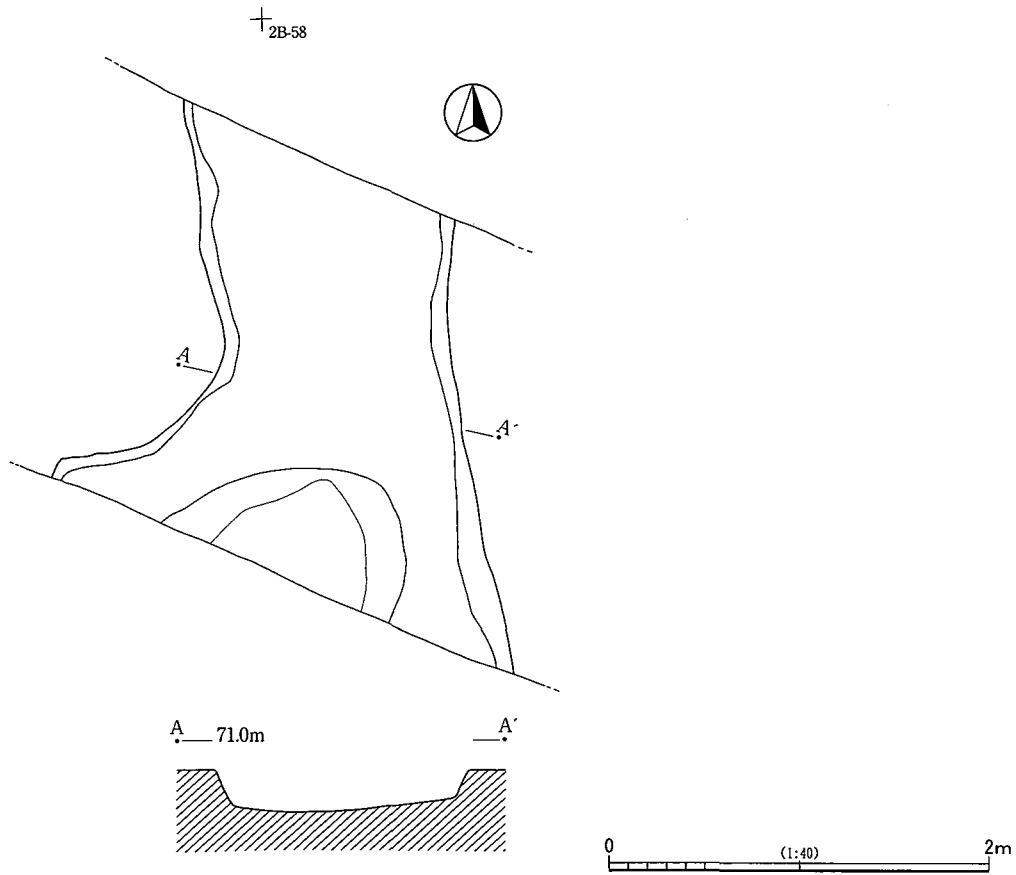
検出された長さ10.4m、幅0.7m、検出面からの掘り込みの深さ15cmを測る。両端は東西方向に延びる。幅はほぼ均一でSD-004と並行する。遺物は出土しなかった。竪穴状遺構の南側に位置し検出面もほぼ同一であることから考えるとSI-002と同時期に存在した可能性が高い。



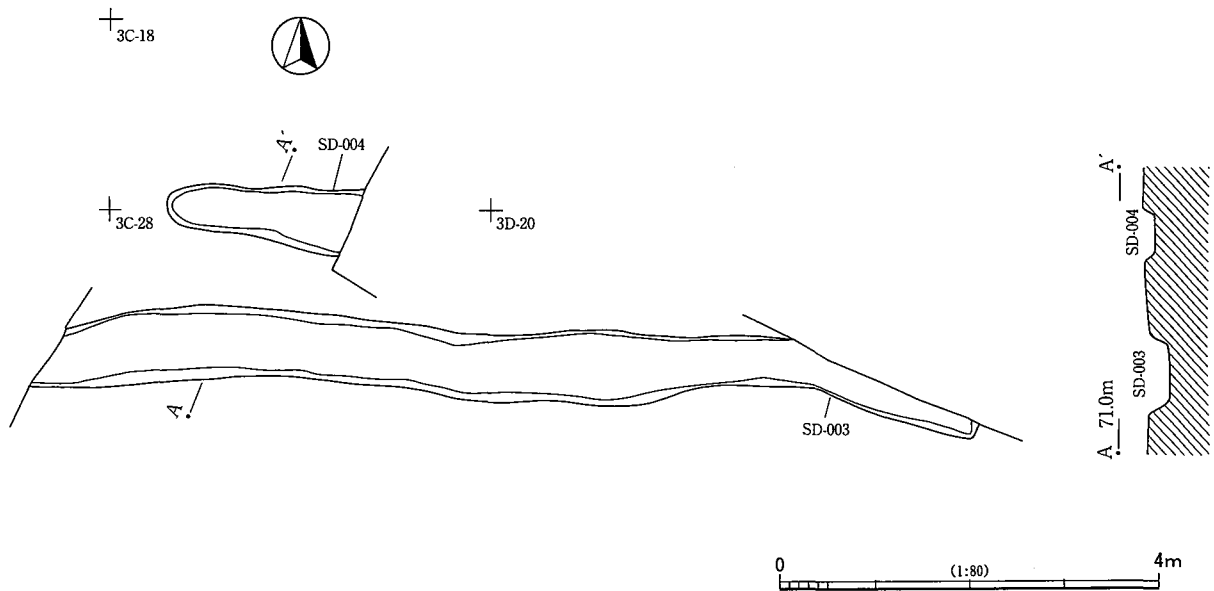
第4图 SI-002

SD-004 (第6図)

調査区西側3C-18グリッドで東西方向に検出された溝状遺構である。検出された長さ1.96m, 幅0.76m, 検出面からの掘り込みの深さ13cmを測る。西端は壁が立ち上り, 収束している。遺物は出土していない。



第5図 SD-001



第6図 SD-003.004

### 3 道路状遺構

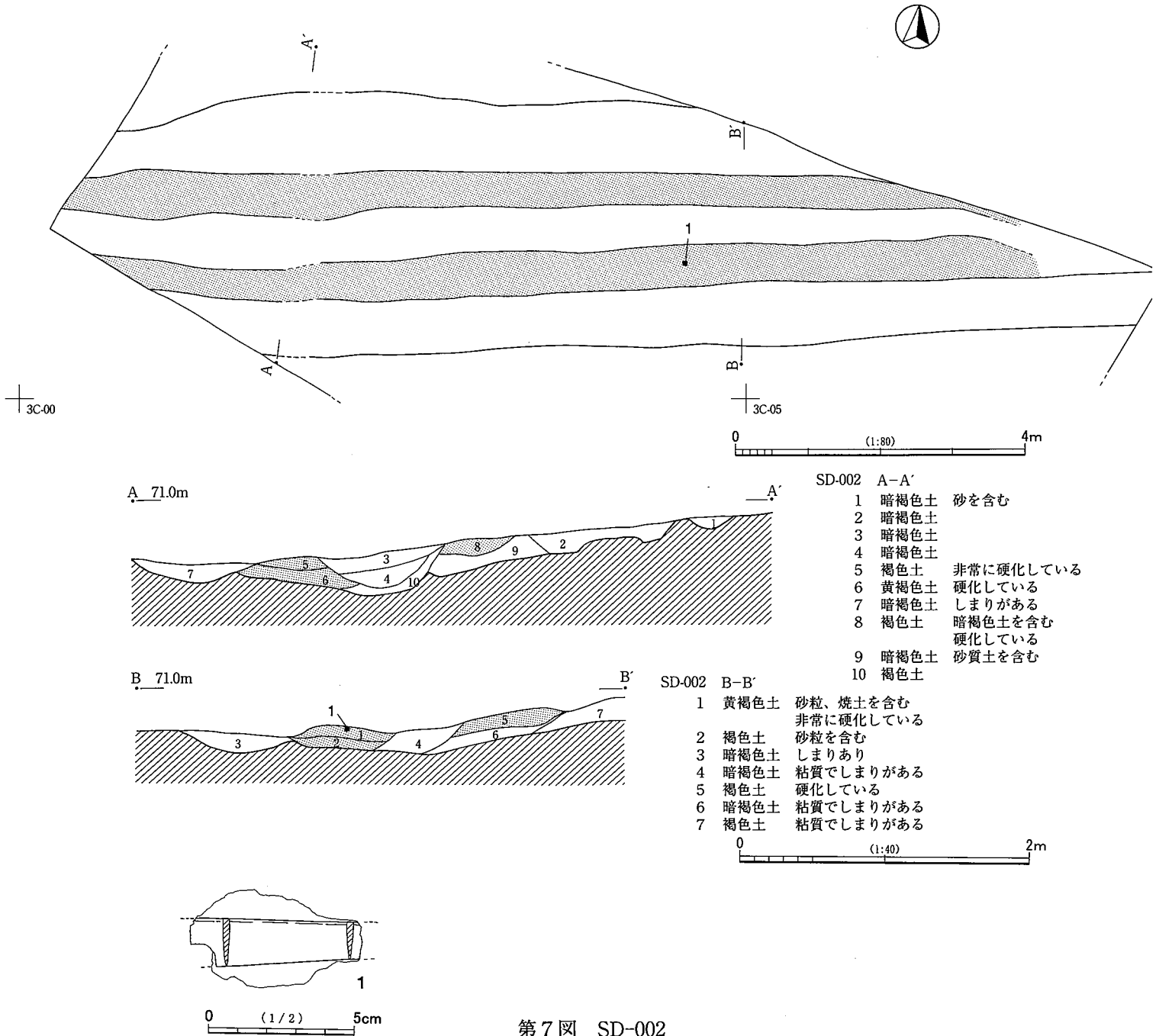
#### SD-002 (第7図, 図版3)

調査区西側2C-80グリッドから2C-87グリッドにかけて東西方向に検出された道路状遺構である。

検出された長さ13.1m, 幅3.6m, 検出面からの掘り込みの深さ30cmを測る。両端は調査区外に続く。

2列の硬化面が検出された。北側硬化面は、幅約60cm, 厚さ20cmで上部は褐色, 下部は黄褐色を呈する。南側硬化面は幅約70cm, 厚さ12cmを測り褐色を呈する。硬化面以外の覆土は暗褐色土で、一部に砂質土を含む層が見られる。南側硬化面上から刀子片が出土している。小片のため図示できないが近世の陶磁器片が出土した。旧石器時代の石器が出土しているが遺構に伴うものではない。

1は鉄製刀子である。SD-002覆土中から出土した。



第7図 SD-002



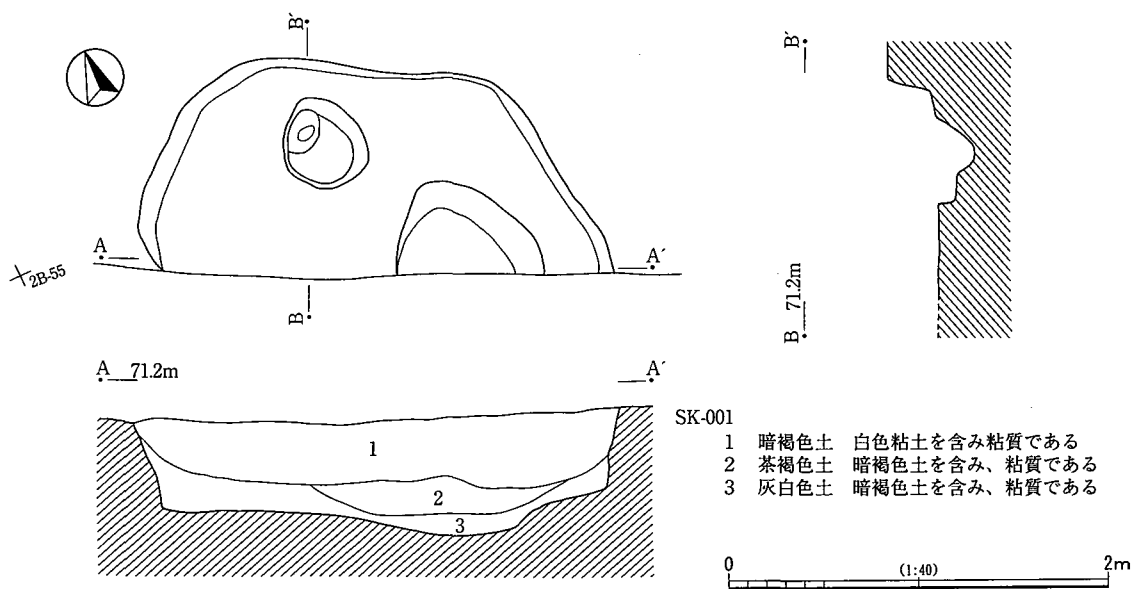
#### 4 土坑

##### SK-001 (第8図, 図版4)

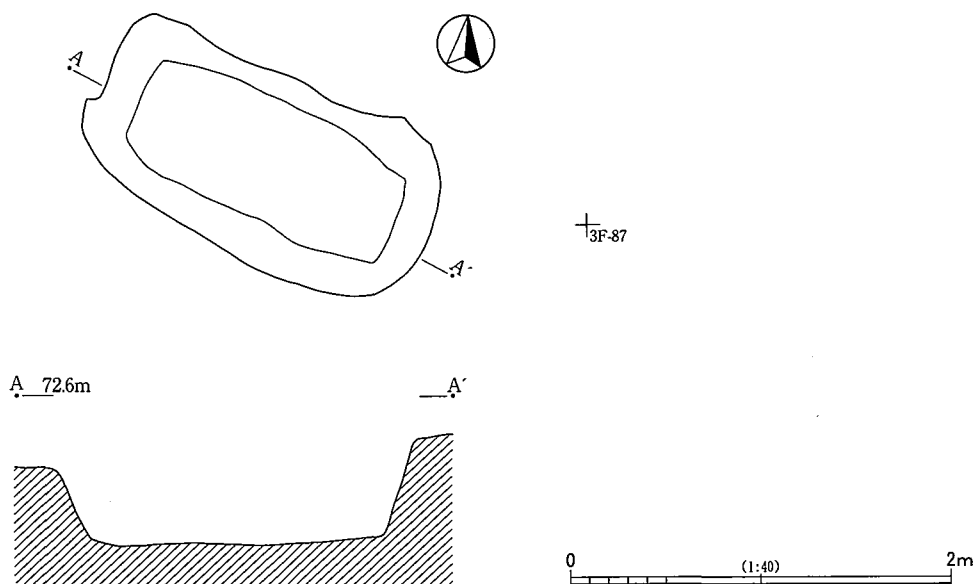
調査区西側2B-56グリッドから検出された土坑である。平面形は楕円形を呈する。調査区が狭く完掘できていない。規模は、長軸2.4m、短軸1.05m、検出面からの掘り込みの深さ26cmを測る。覆土は暗褐色土、茶褐色土、灰白色土で粘質を呈し自然堆積と思われる。底面に2基の小穴が掘られているが本遺構に伴う可能性は低い。小片のため図示できないが少量の土師器片が出土している。

##### SK-002 (第9図, 図版4)

調査区東側3F-66グリッドから検出された土坑である。平面形は隅丸長方形を呈する。長軸1.88m、幅0.97m、検出面からの掘り込みの深さ49cmを測る。小片のため図示できないが少量の土師器片が出土した。



第8図 SK-001



第9図 SK-002

## 第2節 遺構外出土遺物

### 1 旧石器時代石器 (第10図, 図版6)

旧石器時代の遺構は検出されなかった。ローム層が一部にしか遺存していなかったため2か所のみ確認グリッドを設定し確認調査を行ったが石器の出土は見られなかった。以下の石器は上層遺構およびグリッド出土の石器である。1は2C-82グリッド出土の尖頭器である。石材は頁岩。完形である。2は2C-84グリッド出土の尖頭器である。石材は頁岩と思われる。3は2C-94グリッド出土の尖頭器である。石材はトロトロ石。上部を欠損する。

### 2 縄文時代土器・石器 (第11図, 図版5)

縄文時代の遺構は検出されていない。出土した縄文土器は合計15点, 総重量94.2gであった。その内6点について採拓および断面実測を行った。出土はトレンチ, 遺構, グリッドからのもので遺構に伴うものではない。時期的には1~4は前期, 5は中期, 6は後期に比定される。2は波状口縁を呈する深鉢の口縁部, 3, 4は胴部である。5は加曾利E式に比定される深鉢の口縁部である。口縁部下を沈線で区画し上側に口縁部に沿って円形の刺突を, 下側に縄文を施している。6は加曾利B式期に比定される波状を呈する口縁部である。器壁が薄く焼成も良好である。7は3D-32グリッドから出土した黒曜石の石鏃である。上端と下端を欠損する。

### 3 奈良・平安時代の遺物 (第12図, 図版8・9)

1はT4から出土した土師器の甕の口縁~胴部である。残存器高11.2cmを測り, 口縁部ヨコナデ, 外面ヘラケズリ, 内面ヘラナデで調整され, 口縁端部に刻み目がある。胎土には砂粒, 褐色粒, 白色針状物質を含む。焼成は良好である。色調は内外面共明褐色を呈する。

2は3C-16グリッドから出土した土師器甕の口縁部である。外面ヘラナデ, 内面ナデで調整され胎土には砂粒, 雲母を含む。色調は内面明赤褐色, 外面橙色を呈し焼成は良好である。

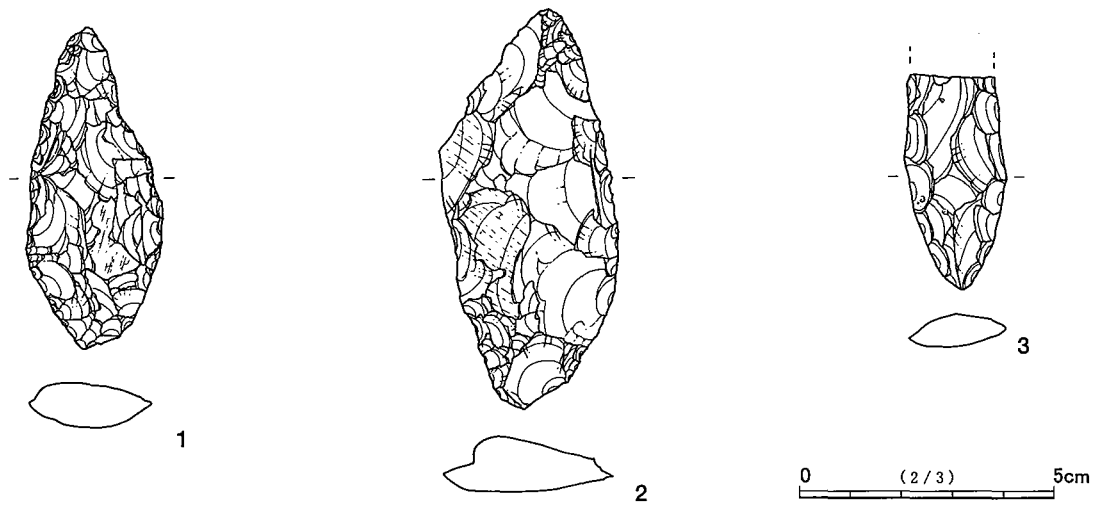
3はT4から出土した土師器の坏の口縁部である。復元口径13.0cmを測り, ロクロ整形後外面, 内面を回転ナデで調整する。胎土には砂粒, 雲母, 白色針状物質を含む。色調は内外面共橙色を呈し焼成は良好である。

4は3C-16・17グリッドから出土した土師器坏の底部から胴下部である。底部はほぼ完存している。底径6.4cmを測り, 外面, 内面回転ナデで調整され底部は回転糸切りされる。胎土には砂粒, 褐色粒を含み色調は内面明赤褐色, 外面明褐色を呈する。焼成は良好である。

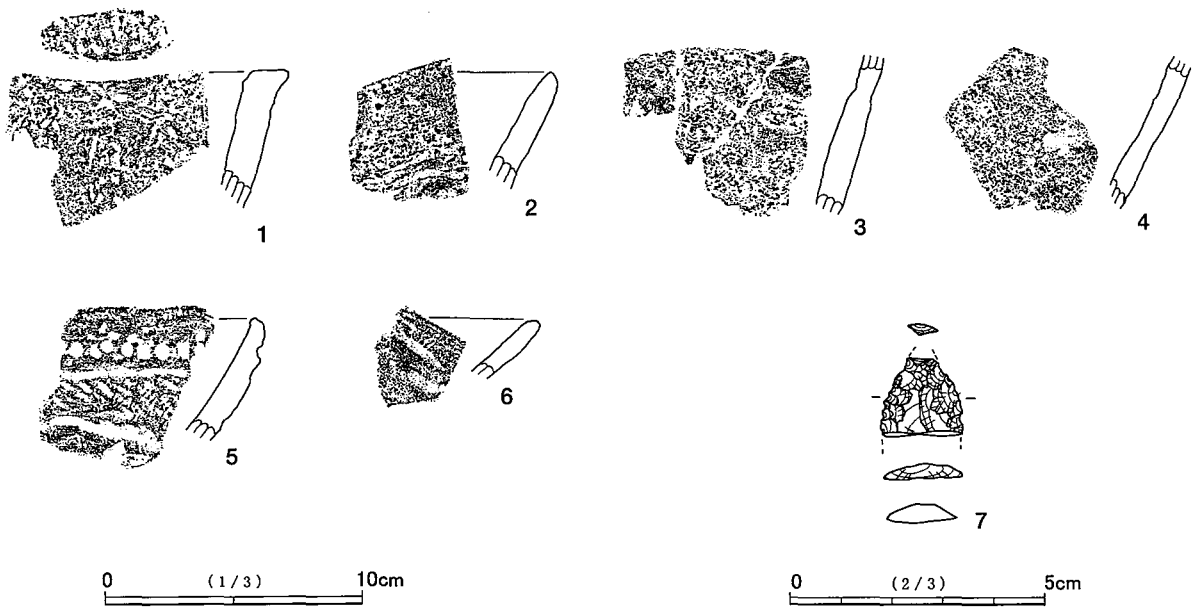
5は3C-07グリッドから出土した土師器の坏で底部の1/4ほどが遺存している。復元底径7.4cmを測り, 底部, 内面ナデで調整され胎土には砂粒, 雲母, 白色針状物質を含む。色調は内外面共橙色を呈し焼成は良好である。

6は3C-05グリッドから出土した土師器の坏の底部である。復元底径7.2cmを測り, 内面ナデで調整され底部は回転糸切りされる。胎土には砂粒, 雲母, 白色針状物質を含む。色調は内外面共橙色を呈し焼成は良好である。

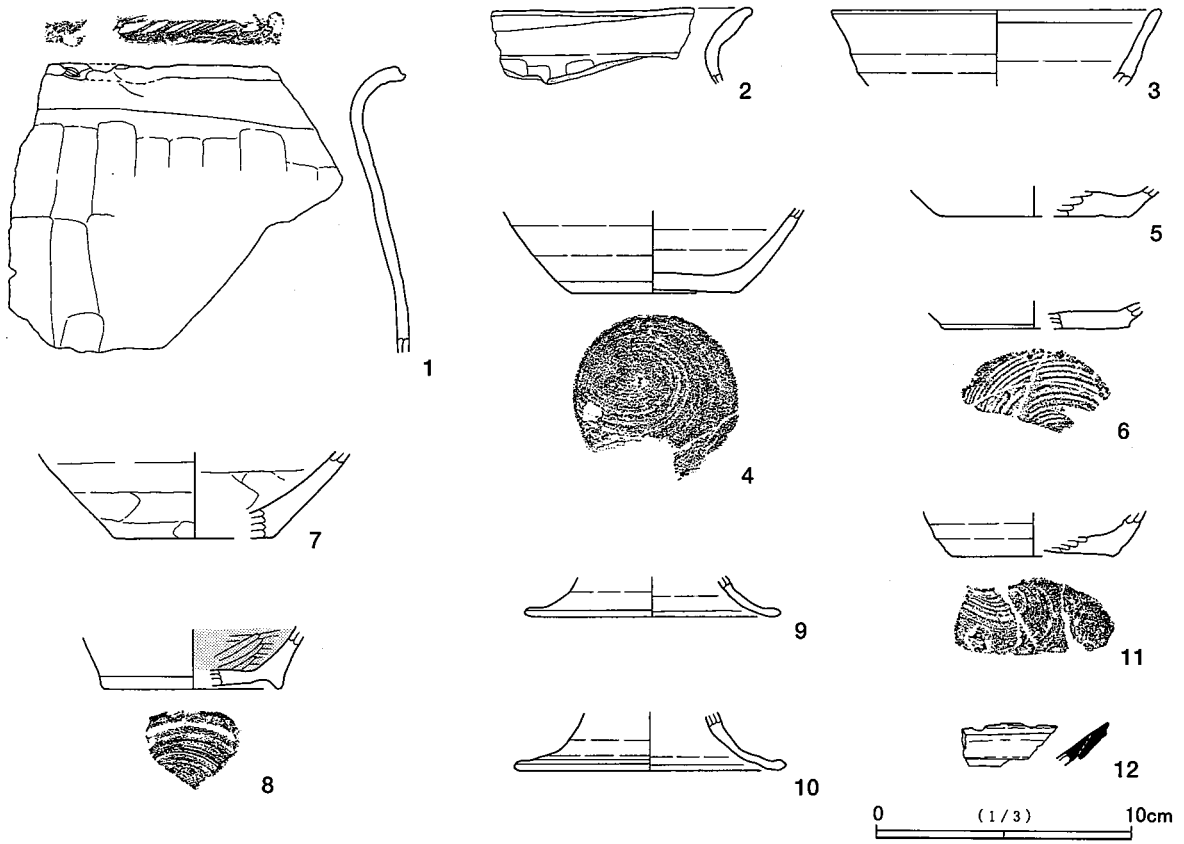
7は3C-17グリッドから出土した土師器坏の底部から胴下部である。復元底径6.2cmを測り, 外面, 内面ケズリ後ナデで調整され胎土には砂粒, 褐色粒を含む。色調は内面明赤褐色, 外面橙色を呈し焼成は良



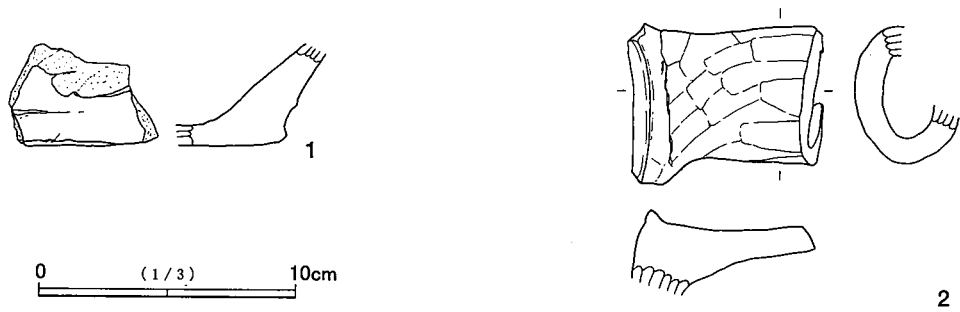
第10図 旧石器時代石器



第11図 縄文時代土器・石器



第12図 奈良・平安時代の遺物



第13図 中・近世の遺物

好である。

8は3C-27グリッドから出土した土師器高台付坏の底部である。内面を黒色処理し、底部に低い高台が付き、外面は直線的に立ち上がっている。復元底径7.0cmを測り、底部回転ナデ、外面ナデ、内面ミガキで調整され胎土には砂粒、雲母を含み色調は内面黒色、外面にぶい橙色を呈する。焼成は良好である。

9は3C-16グリッドから出土した土師器の足高高台で裾が大きく広がっている。復元底径10.0cmを測り、内面、外面ナデで調整される。胎土には砂粒、白色針状物質を含み色調は内面明褐色、外面明赤褐色を呈する。焼成は良好である。

10は3C-16グリッドから出土した土師器の足高高台で9と同様のタイプであるが、端部が僅かに外反する。復元底径10.6cmを測り、内外面ナデで調整され、胎土には砂粒、雲母を含む。色調は内面褐色、外面明赤褐色を呈し焼成は良好である。

11は3C-27グリッドから出土した土師器の坏の底部である。復元底径6.4cmを測り、外面、内面回転ナデで調整され、底部は回転糸切りされる。胎土には砂粒、白色針状物質を含み色調は内外面共明赤褐色を呈し、焼成は並である。

12は2C-84グリッドから出土した須恵器の甕の口縁部で、折り返し口縁である。小片のため復元実測はできないが、外面、内面ナデで調整され胎土には砂粒、雲母を含む。色調は内外面共にぶい橙色を呈し焼成は良好である。

#### 4 中・近世の遺物（第13図、図版9）

1は3C-27グリッドから出土した中世陶器であり捏ね鉢と思われ、底部のみ遺存する。2は3C-16から出土した土師質土器の把手部である。

## 第3章 ま と め

今回の調査は、東西約370m南北約220mの新巻遺跡群の北端に幅約10mのトレンチを入れたことになり、発掘調査例が少なかった当地区に一つの調査例を加えることができた。

以下、この調査の中で検出された遺構や出土遺物について確認し、まとめにかえたい。

### 旧石器時代

遺物の出土地点は、近世以降の道路状遺構の覆土中であり、出土レベルは現地表から30cm～40cm下がったところであり、ローム層中からの出土ではない。したがって遺物自体の原位置は保たれていないと考えられる。遺物を包含していた土が周辺あるいは他の場所からもたらされた結果の出土と考えられる。周辺の土が移動されたとするならば、本遺跡内に旧石器時代の遺構や遺物包含層が存在することは明らかであり、当地区が旧石器時代の人々の生活や活動の場であったことを付け加えることができる。

### 縄文時代

土器片が10数点出土したにすぎない。周辺に縄文時代の前期から後期にわたる活動の跡が存在する可能性は指摘できる。

### 奈良・平安時代

竪穴状遺構が検出された。まとまった遺物の出土状況が見られた点や、柱穴が5基検出された点では住居跡の可能性を考えてよいと思われる。反面、この時期の住居跡では通常設置されているカマドの検出がなかったこと、硬化した床面が検出されなかった点などを考え合わせると、本遺構が住居であったと断定するには不十分である。なんらかの小屋状のものであった可能性も否定できない。

本遺構及び周辺のグリッドから出土した土器は甕、坏、足高高台、灰釉陶器などである。黒色土器、足高高台は千葉市城ノ台遺跡の例ではおよそ10世紀末から11世紀前半を中心とした時期が想定されており、竪穴状遺構はそれに近い年代の所産ではないかと思われる。これにより10～11c頃の新巻地区での人々の生活の痕跡が確認できた。今後新巻地区周辺で発掘調査が行われ各時代の状況がさらに明らかになることを期待したい。

### 参考

千葉東南部ニュータウン34－千葉市城ノ台遺跡－ 平成18年 財千葉県教育振興財団

第2表 遺構一覧表

	遺構番号	グリッド	種別	平面形態	断面形態	規模(m)			P1(cm)	P2(cm)	P3(cm)	P4(cm)	P5(cm)	
						長さ・長軸	幅・短軸	深さ	長径×深さ	長径×深さ	長径×深さ	長径×深さ	長径×深さ	
1	SI	002	3C-16ほか	竪穴状遺構	(長方形)	-	(2.74)	(2.46)	-	35×26	34×53	32×51	22×30	25×41
2	SD	001	2B-58ほか	溝	直線状	逆台形	2.1	1.3	0.22	-	-	-	-	-
3	SD	002	2C-80ほか	道路状遺構	直線状	-	13.1	3.6	0.3	-	-	-	-	-
4	SD	003	3C-28ほか	溝	直線状	逆台形	10.4	0.7	0.15	-	-	-	-	-
5	SD	004	3C-18ほか	溝	直線状	逆台形	1.96	0.76	0.13	-	-	-	-	-
6	SK	001	2B-56ほか	土坑	楕円形	逆台形	2.4	1.05	0.26	-	-	-	-	-
7	SK	002	3F-66ほか	土坑	長方形	逆台形	1.88	0.97	0.49	-	-	-	-	-

第3表 石器計測表

番号	グリッド	種類	石材	最大長(mm)	最大幅(mm)	最大厚(mm)	重量(g)	備考
第10図1	2C-82-1	尖頭器	頁岩	63.9	27.2	10.4	16.2	
第10図2	2C-84-1	尖頭器	頁岩	78.9	35.2	12.4	29.7	
第10図3	2C-94-1	尖頭器	トロトロ石	43.3	20.2	9.7	8.0	
第11図7	3D-32-1	石鏃	黒曜石	15.5	16.3	3.9	0.9	
図版6-4	3C-05-1	剥片	ホルンフェルス	41.6	52.9	14.3	32.7	
図版6-5	3C-06-1	剥片	流紋岩	60.7	43.7	25.5	43.4	
図版6-6	3C-07-1	剥片	チャート	19.1	23.9	4.6	1.9	
図版6-7	3C-16-1	剥片	黒曜石	31.9	22.2	8.6	3.3	
図版6-8	3C-16-1	両極剥片	チャート	22.1	10.5	4.6	0.9	
図版6-9	3C-27-1	剥片	黒曜石	14.8	37.8	8.8	3.7	
図版6-10	SD-002-1	剥片	ホルンフェルス	20.9	35.7	9.3	6.5	
図版6-11	SD-002-1	剥片	頁岩	76.1	36.2	15.7	33.0	

第4表 SI-002土器観察表

挿図番号	遺構・グリッド	器種	遺存度	計測値(cm)	調整	色調	胎土	焼成	重量(g)	備考
第4図1	SI-002-1	土師器甕	50%	口径 (14.8)	外面 ヘラケズリ	(内) 橙色	砂粒 褐色粒 白色針状物質	良好	50.4	
				底径 -	内面 ヘラケズリ	(外) 橙色				
				器高 (4.7)	口唇部 ナデ					
第4図2	SI-002-1 3C-07-1 3C-16-4	土師器高台	高台80%	口径 -	外面 ナデ	(内) 橙色	砂粒 雲母 白色針状物質	良好	45.8	
				裾径 7.4	外面 回転ナデ	(外) 橙色				
				器高 [ 4.0 ]	内面 回転ナデ					
第4図3	3C-17-3 3C-27-1	土師器坏	口縁部	口径 (13.0)	底部 -	(内) 橙色	砂粒 雲母 白色針状物質	良好	22.6	
				底径 -	外面 回転ナデ	(外) 橙色				
				器高 [ 4.0 ]	内面 回転ナデ					
第4図4	3C-16-2	土師器	底部	口径 -	底部 回転糸切り	(内) 明赤褐色	砂粒 褐色粒 雲母	良好	25.9	拓本
				底径 ( 6.4 )	外面 ヘラケズリ	(外) 赤褐色				
				器高 [ 0.9 ]	内面 ナデ					
第4図5	3C-16-1 3C-17-2	土師器坏	70%	口径 (12.2)	底部 回転糸切り	(内) 明褐色	砂粒 白色針状物質 スコリア	良好	120.5	拓本
				底径 ( 7.6 )	外面 回転ナデ	(外) 明褐色				
				器高 4.6	内面 回転ナデ					
第4図6	3C-16-6 T2-1	灰釉陶器	頸部80%	口径 -	底部 -	(内) 灰白色	砂粒 石英	良好	269.2	
				底径 -	外面 回転ナデ	(外) 灰オリーブ色				
				器高 [ 9.6 ]	内面 回転ナデ					

( ) 復元値 [ ] 現存値

第5表 掲載土器観察表

挿図番号	遺構・グワツ	器種	遺存度	計測値(cm)	調整	色調	胎土	焼成	重量(g)	備考
第12図1	T4-1	土師器甕	胴部	口径 ー	口縁部 ヨコナデ	(内)明褐色	砂粒	良好	105.2	
				底径 ー	外面 ヘラケズリ	(外)明褐色	褐色粒			
				器高 [11.2]	内面 ヘラナデ		白色針状物質			
第12図2	3C-16-1	土師器甕	口縁部	口径 ー	底部 ー	(内)明赤褐色	砂粒	良好	22.8	
				底径 ー	外面 ヘラナデ	(外)橙色	雲母			
				器高 [ 3.0]	内面 ナデ					
第12図3	T4-1	土師器坏	口縁部	口径 (13.0)	底部 ー	(内)橙色	砂粒	良好	9.6	
				底径 ー	外面 回転ナデ	(外)橙色	雲母			
				器高 3.0	内面 回転ナデ		白色針状物質			
第12図4	3C-16-1 3C-17-1	土師器坏	60%	口径 ー	底部 回転糸切り	(内)明赤褐色	砂粒	良好	97.7	拓本
				底径 6.4	外面 回転ナデ	(外)明褐色	褐色粒			
				器高 [ 3.3]	内面 回転ナデ					
第12図5	3C-07-1	土師器坏	底部	口径 ー	底部 ナデ	(内)橙色	砂粒	良好	21.4	
				底径 ( 7.4)	外面 ー	(外)橙色	雲母			
				器高 [ 1.2]	内面 ナデ		白色針状物質			
第12図6	3C-05-1	土師器坏	底部	口径 ー	底部 回転糸切り	(内)橙色	砂粒	良好	20.9	拓本
				底径 ( 7.2)	外面 ー	(外)橙色	雲母			
				器高 [ 1.0]	内面 ナデ		白色針状物質			
第12図7	3C-17-1	土師器坏	胴~底部	口径 ー	底部 ー	(内)明赤褐色	砂粒	良好	23.1	
				底径 ( 6.2)	外面 ケズリ後ナデ	(外)橙色	褐色粒			
				器高 [ 3.4]	内面 ケズリ後ナデ					
第12図8	3C-27-1	土師器坏	底部	口径 ー	底部 回転ナデ	(内)黒色	砂粒	良好	16.8	拓本
				底径 ( 7.0)	外面 ナデ	(外)にぶい橙色	雲母			
				器高 [ 2.4]	内面 黒色・ミガキ					
第12図9	3C-16-1	土師器高台	高台	裾径 (10.0)	底部 ナデ	(内)明褐色	砂粒	良好	8.8	
				底径 ー	外面 ナデ	(外)明赤褐色	白色針状物質			
				器高 [ 1.6]	内面 ナデ					
第12図10	3C-16-1	土師器高台	高台	裾径 (10.6)	底部 ー	(内)褐色	砂粒	良好	10.7	
				底径 ー	外面 回転ナデ	(外)明赤褐色	雲母			
				器高 [ 1.8]	内面 回転ナデ					
第12図11	3C-27-1	土師器坏	底部	口径 ー	底部 回転糸切り	(内)明赤褐色	砂粒	並	31.3	拓本
				底径 ( 6.4)	外面 回転ナデ	(外)明赤褐色	白色針状物質			
				器高 [ 1.7]	内面 回転ナデ					
第12図12	2C-84-1	須恵器	口縁部	口径 ー	底部 ー	(内)にぶい橙色	砂粒	良好	6.2	
				底径 ー	外面 ナデ	(外)にぶい橙色	雲母			
				器高 [ 1.7]	内面 ナデ					
第13図1	3C-27-1	陶器	底部	口径 ー	底部 ー	(内)オリーブ褐色	砂粒	良好	73.6	
				底径 ー	外面 ナデ	(外)褐色				
				器高 [ 3.6]	内面 ナデ					
第13図2	3C-16-3	土師質土器	把手部	長さ 7.1	底部 ー	(内)橙	砂粒	良好	138.2	
				最大幅 6.2	外面 ヘラケズリ	(外)橙~褐色	褐色粒			
				最小幅 4.9	内面 ヘラケズリ		白色針状物質			

( ) 復元値 [ ] 現存値

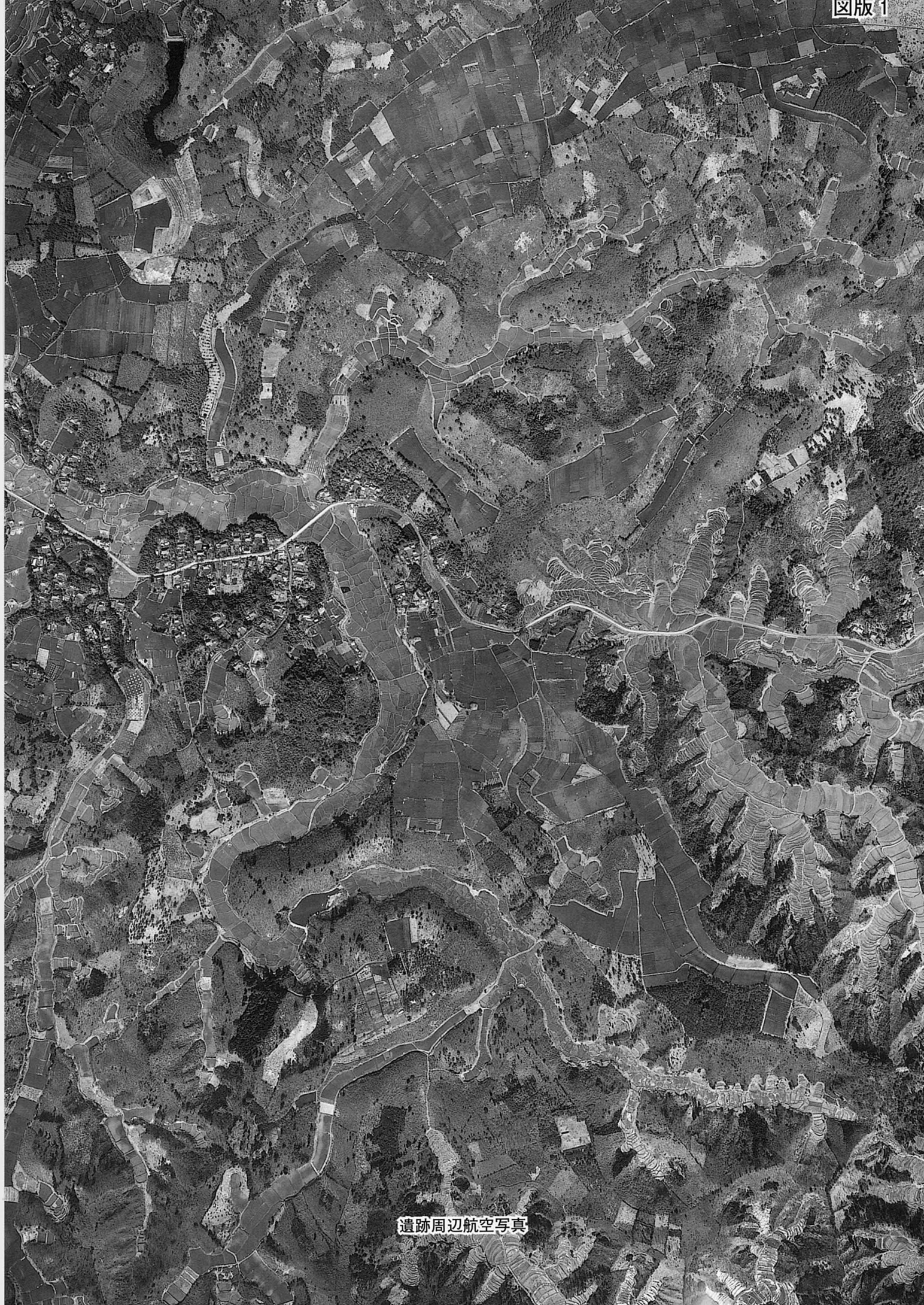


第6表 非掲載遺物重量表

(単位: g)

遺構・クワット	縄文土器	土師器甕			土師器坏			土師器 底部ほか	須恵器	陶磁器	黒曜石	礫	粘土塊
		口縁部	体部	底部	口縁部	体部	底部						
SI-001												191.9	
SI-002						2.3							
SD-002	3.6		44.8	24.1	7.8	24.0	14.7		16.9	35.1		162.2	4.4
SK-001		4.3											
SK-002												185.0	
2C-71													
2C-72			5.6							3.5			
2C-73										0.7			
2C-82			5.6										
2C-84		9.1	7.4			4.7					0.1	28.0	
2C-85							3.3					26.6	
2C-86												56.6	
2C-94	3.2		25.6			6.7				13.4		32.4	5.0
2C-96			5.1			1.7	7.7			18.8		4.8	
3C-04		3.7	68.9	51.2	23.0	7.4	59.1				0.1	26.9	
3C-05	9.4	29.3	301.6	76.3	36.1	115.7	185.5	46.5	9.9			27.3	72.7
3C-06	13.6					1.5							
3C-07	8.6				2.4	3.0	48.0					363.4	84.5
3C-09		3.0	20.5			2.4	11.8					42.7	
3C-16	5.2	3.7	6.1		1.2	16.5	7.5						172.9
3C-17	7.3		76.6		20.8	56.0	44.9		1.3	11.5		0.5	64.7
3C-18					0.8	16.3	5.8						
3C-19			3.8										
3C-23			22.9										
3C-26	14.7												
3C-27	9.5	7.0	202.2	78.1	48.2	194.8	355.8	24.8		6.2		301.6	36.0
3C-28			17.5		3.3	15.4						7.2	
3C-37	19.1	11.9	2.9		4.9	2.6							
3C-38			2.4			0.9							
3C-39													
3D-20						8.7							3.1
3D-31												7.1	
3D-32						4.9							
T4	36.9	23.3	131.8		26.8		18.4					266.6	1.2
合計	131.1	95.3	951.3	229.7	175.3	485.5	762.5	71.3	28.1	89.2	0.2	1730.8	444.5

# 写真図版



遺跡周辺航空写真



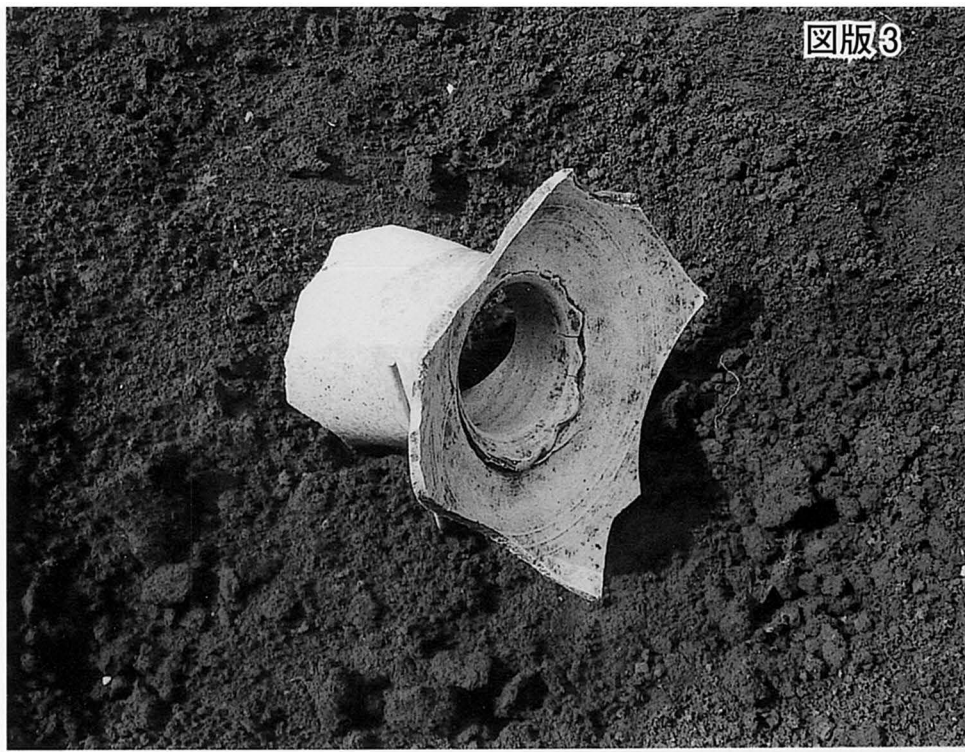


調査前風景 1 (南から)



調査前風景 2 (西から)





SI-002出土遺物



SD-001



SD-002





SD-003



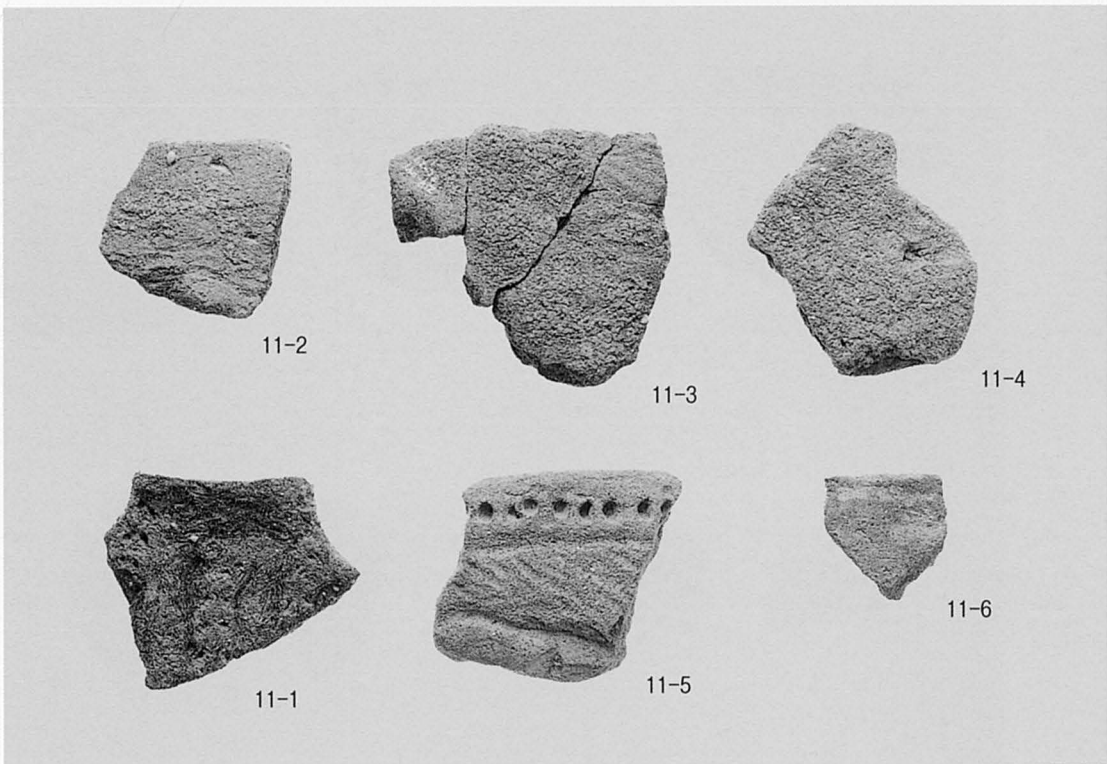
SK-001



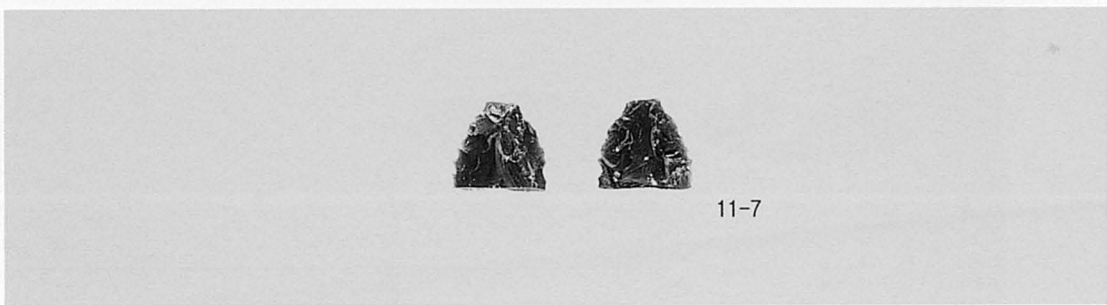
SK-002



下層グリッド (3D-46)



縄文土器



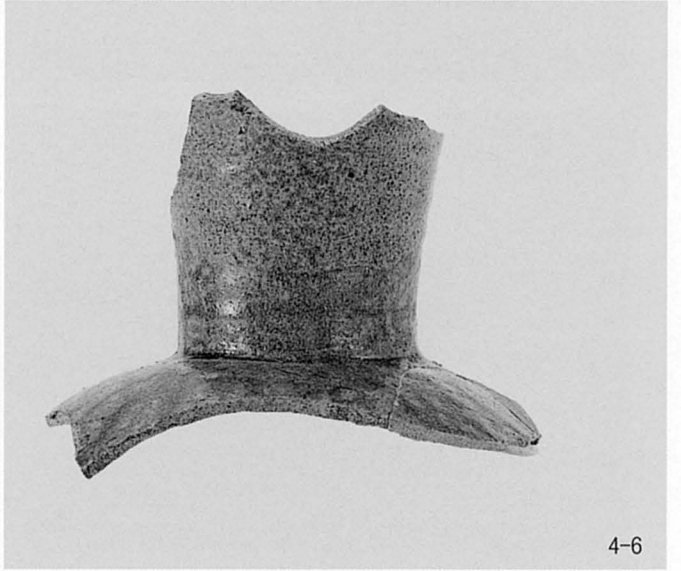
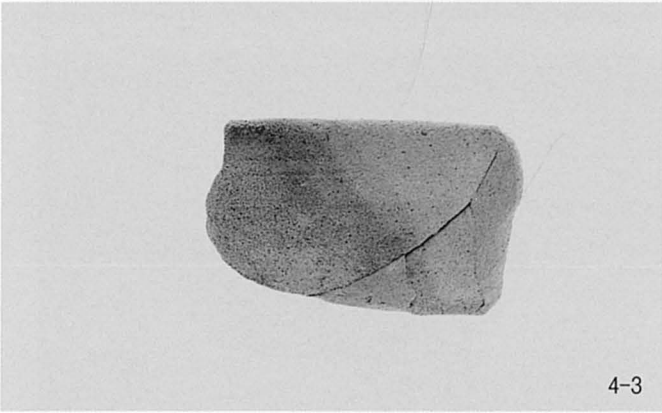
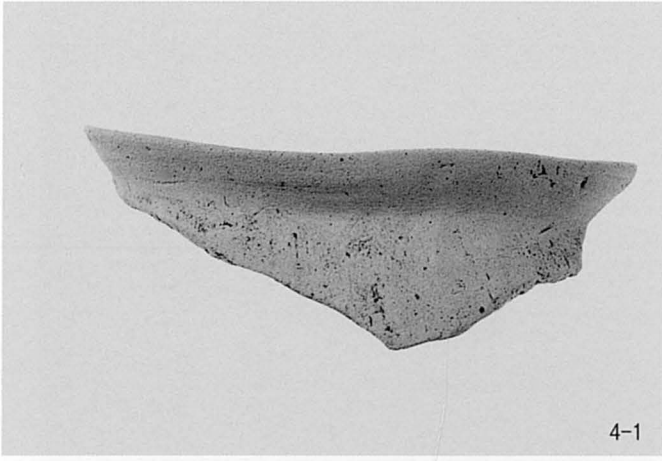
縄文時代石器



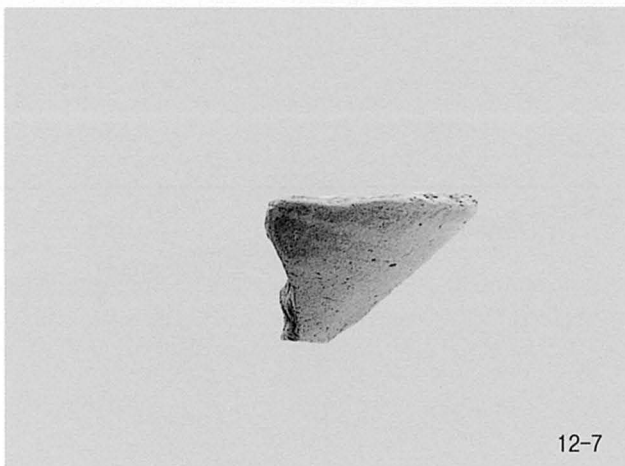
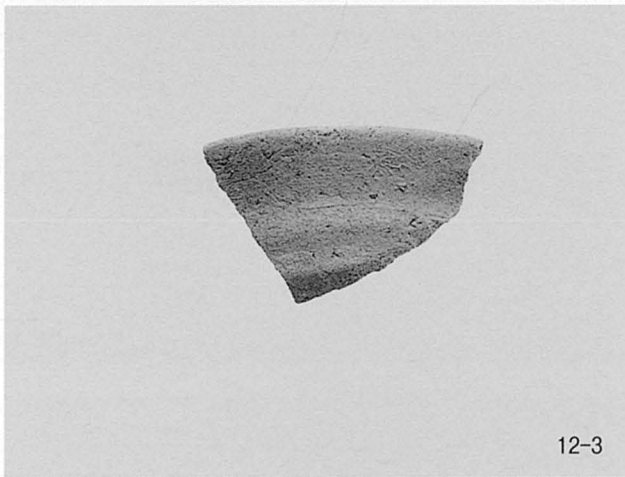
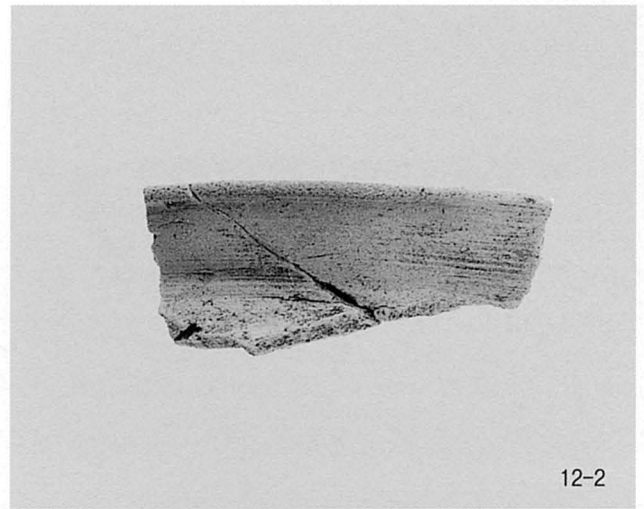
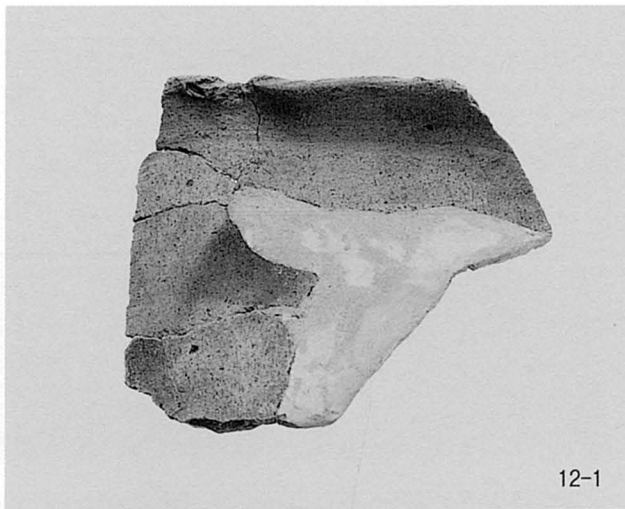


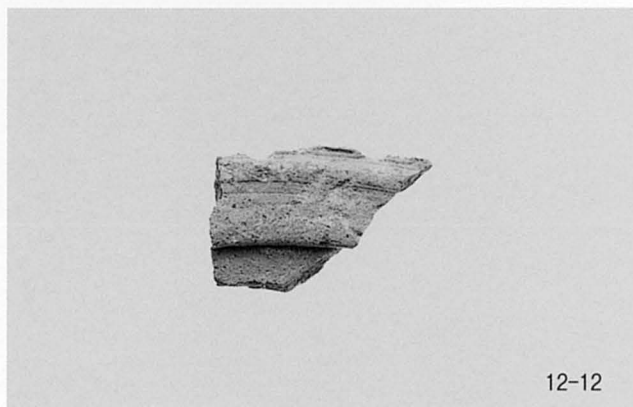
旧石器时代石器



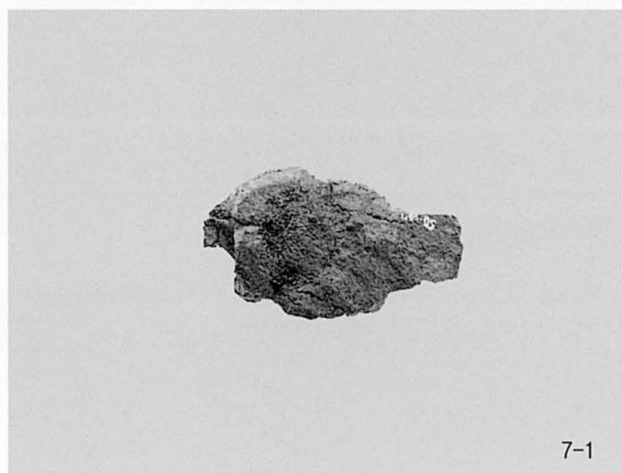
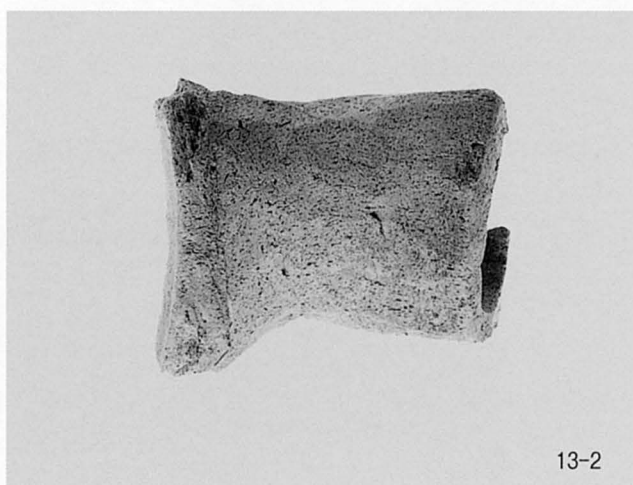


SI-002出土遺物





奈良・平安時代の遺物（2）



中・近世の遺物

## 報 告 書 抄 録

ふりがな	じゅうたくしがいちきばんせいびいたく (まいぞうぶんかざいちょうさ) ほうこくしょ							
書名	住宅市街地基盤整備委託 (埋蔵文化財調査) 報告書							
副書名	市原市新巻遺跡群							
巻次								
シリーズ名	千葉県教育振興財団調査報告							
シリーズ番号	第626集							
著者名	土屋 治雄							
編集機関	財団法人千葉県教育振興財団 文化財センター							
所在地	〒284-0003 千葉県四街道市鹿渡809番地2 TEL043(422)8811							
発行年月日	西暦2009年03月25日							
所収遺跡名	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あらまきいせきぐん 新巻遺跡群	いちはらしあらまき 市原市新巻434-1 ほか	219	091	35度 25分 38秒	140度 10分 32秒	2008.07.11~ 2008.07.31	1,280	道路建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
新巻遺跡群	包蔵地	旧石器時代 縄文時代  奈良・平安 中・近世	竪穴状遺構 1基, 溝状遺構 2条 道路状遺構 1条, 土坑 2基	尖頭器・剥片 縄文土器・石鏃  土師器・須恵器 灰釉陶器 陶器・土師質土器 刀子				
要約	<p>遺跡は、市原市の東、市原市新巻の丘陵上に所在する。東側で長生郡長柄町と接し、旧市原郡と長生郡の郡境にあたる位置にある。遺跡西側を養老川支流の新堀川が流れ、東側は一宮川の支流が裾に沿って流れる分水嶺に当たる位置でもある。</p> <p>周辺の遺跡では市原市側では古墳群や縄文、古墳、奈良・平安時代の包蔵地が、長柄町側では横穴墓や平安時代の包蔵地の存在が特色付けられる。</p> <p>検出された遺構の時代は、奈良・平安時代、中・近世であり、竪穴状遺構、溝状遺構、土坑、道路状遺構であった。出土した遺物は、旧石器、縄文時代土器・石器、奈良・平安時代土師器・須恵器・灰釉陶器、中・近世の陶器・土師質土器・鉄製品であった。</p>							

千葉県教育振興財団調査報告第626集

### 住宅市街地基盤整備委託 (埋蔵文化財調査) 報告書

— 市原市新巻遺跡群 —

平成21年 3月25日発行

編 集	財団法人	千葉県教育振興財団
発 行	千葉県県土整備部	
		千葉県中央区市場町1-1
	財団法人	千葉県教育振興財団
		四街道市鹿渡809-2
印 刷	株式会社	ライフ
		千葉県成田市東和田595